

夫立会い分娩の導入 ～アンケート結果より～

Introduction of childbirth witnessed by husband ～from a questionnaire result～

西4階病棟 藤森久美子 近藤里栄 安野知香 樋口綾 綿かおる 斉藤昭子 上條陽子

キーワード : 夫立ち会い分娩 出産の満足感 父性の芽生え

要旨：当病棟では妊産褥婦からの夫立会い分娩のニーズを取り入れ、2006年11月より夫立会い分娩を実施している。夫立会い分娩導入後、立ち会い分娩をした夫と当院で分娩した産婦にアンケートを実施した。アンケート結果より、夫立会い分娩に対してプラスな意見が多く、満足度も高く、夫立会い分娩は分娩の一つのスタイルとして評価できる。

I. 緒言

昨今の周産期事情において、少産の傾向がすすみ、女性が出産する機会が減っている。一方で、出産という数少ない体験を満足に行くものにしようという姿勢は高まってきている。このような現状の中、生命誕生に関わる助産師は、各個人の価値観やニーズに敏感に対応し、個々が満足いく出産体験ができるよう援助していくことが必要と考える。

そこで、当病棟では妊産褥婦から要望の多かった夫立会い分娩を2006年11月より実施している。

[用語の定義]

夫立会い分娩：妻の分娩に夫が付き添って分娩期の妻を身体的・精神的にサポートし、産痛緩和のためのマッサージなどを行いながら、妻と共に妊娠・分娩期を過ごすこと¹⁾

II. 実施方法・倫理的配慮

立会い分娩をした夫224名を対象に2006年11月12日～2007年12月31日の間アンケートを配布。当院で分娩をした産婦205名を対象に2007年8月16日～2007年12月31日の間アンケートを配布。記入し終えたアンケートは入院期間中あるいは退院時にスタッフに渡してもらう。

[倫理的配慮] アンケート配布時に施行目的と方法を伝え、アンケートは研究以外に使用しないこと、本人が特定されないこと、拒否できることを説明した。

Ⅲ. 結果

1. 夫立会い分娩実施状況

2006年11月12日～2007年12月31日の期間の全分娩件数は531件。そのうち帝王切開は119件、経膈分娩は412件。経膈分娩のうち夫立会い分娩をした人は224件で経膈分娩全体の54.4%、夫立会い分娩をしなかった人が182件(44.2%)だった。

2. 夫へのアンケート

対象は立会い分娩をした夫224名、回収率は65.5%。

1) 夫立会い分娩の希望

ぜひしたいと思った夫は80%、しぶしぶ承諾した夫は8%、本当は立ち会いたくなかった夫は9%だった。

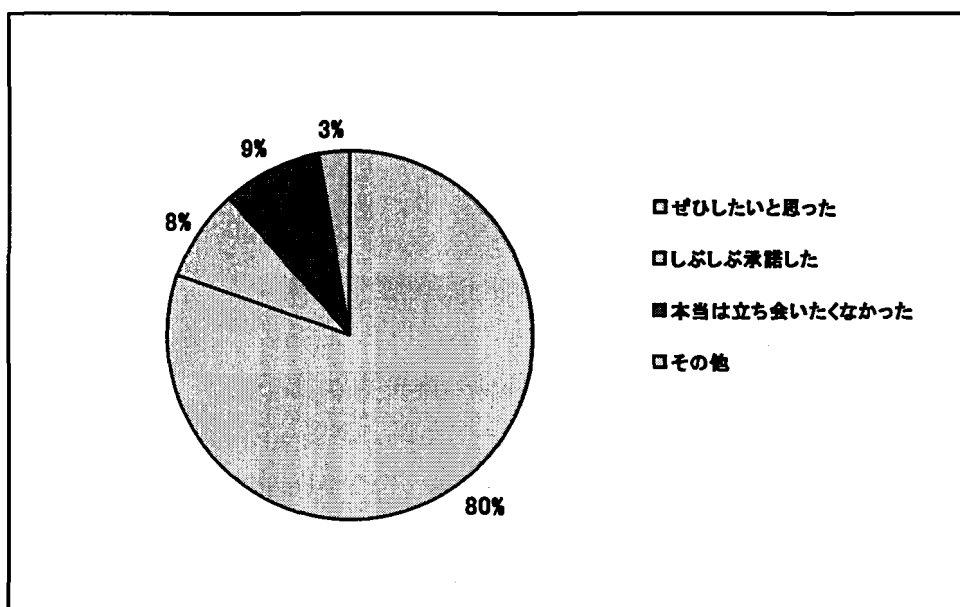


図1

2) お産の学級への参加

夫立会い分娩を希望する夫婦にはお産の学級の参加を勧めていたが、お産の学級に参加した夫は40%で参加しなかった夫は59%だった。参加した夫のうち80%の夫はお産の学級が役に立ったと回答しており、役に立った内容は、妊娠経過・呼吸法・リラックス法・補助動作と回答している。お産の学級に参加できなかった理由は仕事・里帰り分娩の為と回答している。

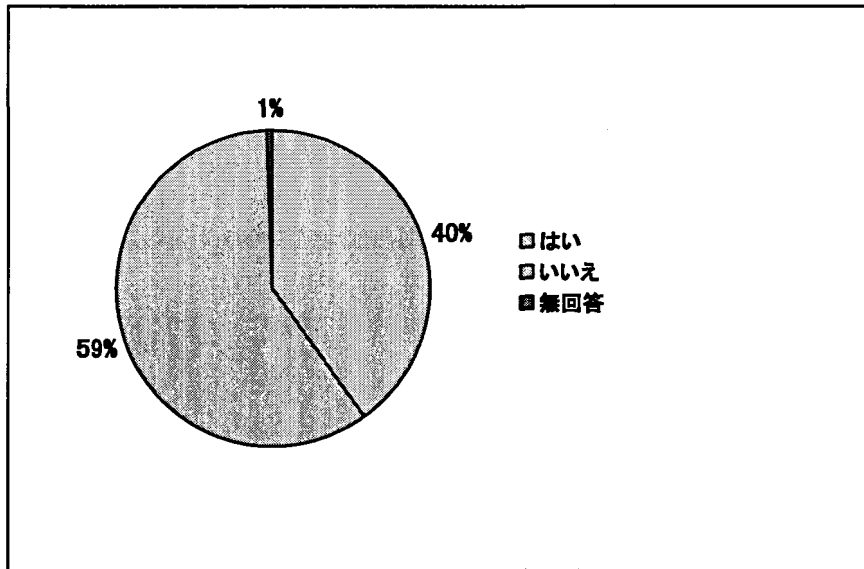


図2

3) 陣痛室で付き添っての感想

陣痛が始まって、分娩室に移るまでの陣痛室で付き添うことは90%以上の夫がよかったと回答している。

よかった理由として、励ましてあげられた・妻が楽になったと思う・安心できた・応援できた・喜びや思い出を共有できた・ともに頑張れた実感をもてた・お産の大変さがわかった・命の大切さを感じた・母親の強さを感じたという回答だった。

よくなかった理由として、妻の痛がっているところをみてしまった・何もできなかった・娘が分娩室に入れなかったという回答だった。

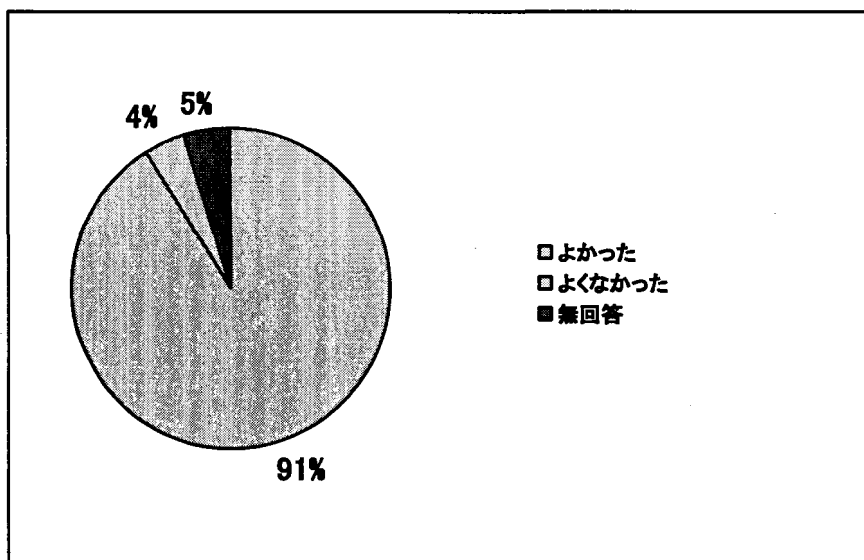


図3

4) 分娩経過中のサポート

励ます・声をかける・手を握るといった精神的援助、腰や背中をさする・マッサージ・リラックスさせるといった安楽援助、給水サポート・食事サポートといった食事身の回りの世話、散歩に付き添う、シャワーの介助などの回答があった。中には、あまりサポートというようなことはできなかった・無我夢中といった回答もあった。

5) 立ち会ってみての気持ち

嬉しかった・感動した・よく頑張ったと思ったというプラスの気持ちの夫が多く、怖かった・ショックだった・気持ち悪かった・緊張した・といったマイナスな気持ちの夫は少数だった。お産の大変さ苦しみがよくわかった・父親の自覚が持てた・将来お産の状況を子どもに話そうと思ったなどの今後の育児にプラスになる気持ちの夫もいた。無力さを感じたと回答した夫もいた。

6) 次回の夫立会い分娩の希望

80%以上の夫は、機会があれば次も立会い分娩を望むと回答している。

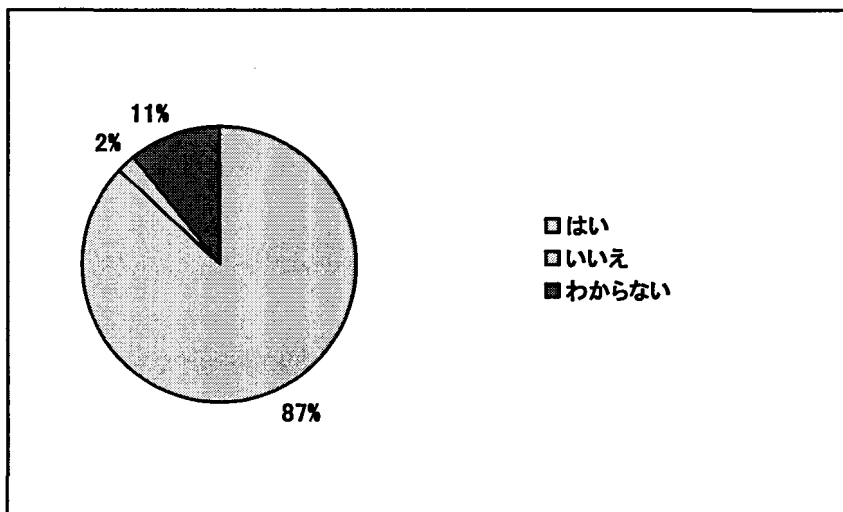


図4

7) 赤ちゃんが産まれた瞬間の気持ち

感動、ほっとした、嬉しい、といった回答が多かった。児に対しては、ありがとう・無事でよかった・元気かい、妻に対しては、ありがとう・よく頑張った・えらいといった回答、父親として、父親であると実感した・生きがいを感じたといった回答があった。

8) 立会い分娩に対する意見感想

立会い分娩に対して、できてよかった・感動した・といった感想や、愛情が深まった・妻や子どもを大事にしようと思った・子育てする上で大きな支えとなるといった気持ちの変化があったという感想がきかれた。立会い分娩を推奨する意見も多くあった。また、夫以外の人の立会いを希望する意見や環境面への改善の意見もあった。スタッフに対しては心強かった・安心した・感謝しているというプラスの意見もあったが、来てくれない時間があったといった意見もあった。

3. 産婦へのアンケート

対象は当院で出産した産婦205名で、回収率は62.4%。

1) 立会い分娩について

夫立会い分娩をした産婦はアンケート回答者のうち64%だった。できなかった産婦が12%、希望しなかった産婦が24%だった。

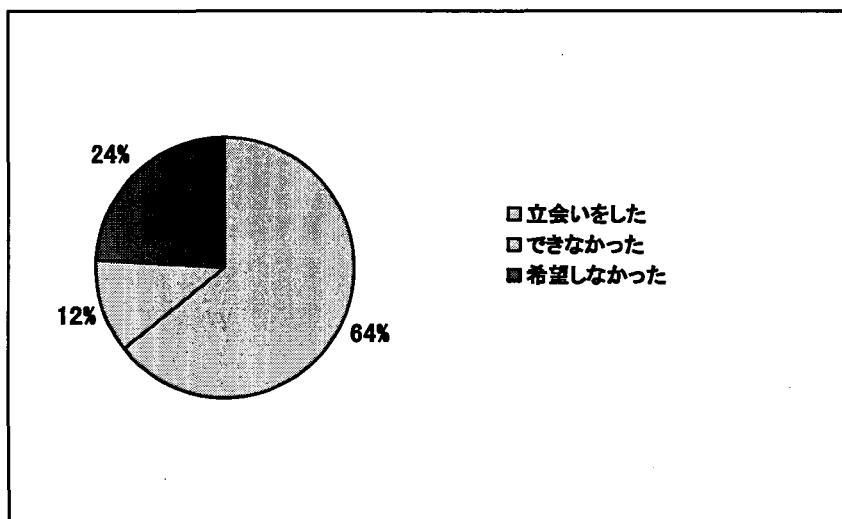


図5

2) 立会い分娩の満足度

夫立会い分娩をして満足と回答した産婦が93%、やや満足と回答した産婦が6%で、不満足との回答はなかった。

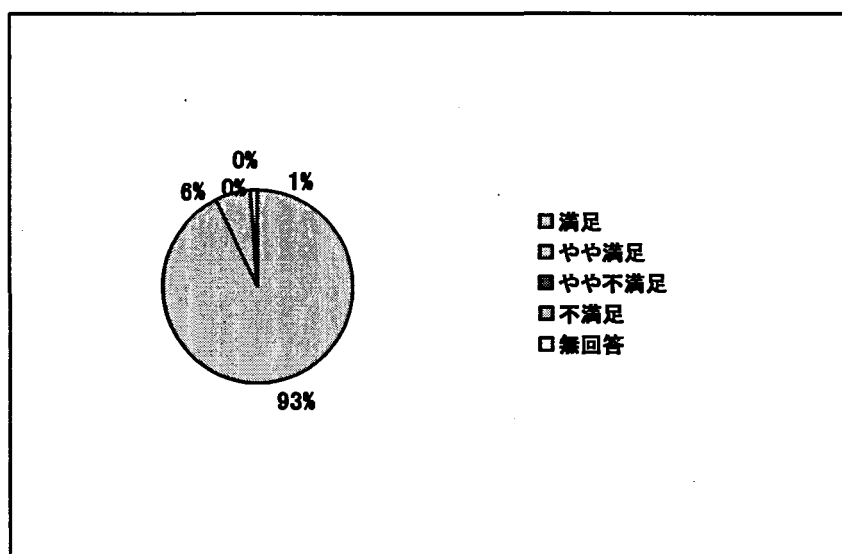


図6

3) 満足だった産婦の感想

安心できた・心強かった・そばにいてくれてよかった・いたから頑張れた、といった夫が精神的な支えとなったという回答が多かった。また産まれる瞬間を共有できた・一緒に貴重な体験ができた・痛みやつらさや大変さをわかってもらえた・同じ感動を味わえたといった、夫立会い分娩をすることでお産の一部を共有することができたという回答もあった。これからの育児を二人で頑張ろうと思うといった、今後の育児につながる回答もあった。夫への感謝の言葉もあった。

状況を見られる余裕はなかったといった理由で満足とまではいかないが、やや満足であると回答した産婦もいた。

4) できなかった理由・希望しなかった理由

上の子をあずけられなかった為、仕事の為や里帰り出産の為、夫立会い分娩ができなかった・希望しなかったと回答している。また、分娩に夫が間に合わなかった・緊急帝王切開になったなどで、希望があっても立会い分娩ができなかったと回答した産婦もいた。

IV. 考察

アンケート結果より、立会い分娩に対して、夫からはできてよかった・感動したなどのプラスの意見が多く、産婦においては安心できた・心強かったと満足度も高く、夫立会い分娩は夫の分娩参加の一つの方法として評価できるといえる。アンケート結果から満足な意見が多く、スタッフに対しても良い評価をもらった事、また、夫立会い分娩が安全に問題なく実施できていることから、スタッフの努力・夫婦への配慮も評価できると思う。今後も満足できる夫立会い分娩になるよう、関わっていきたい。

夫立会い分娩をした夫のお産の学級への参加率が40%と少なかった。これは、当院では帰省分娩が多いためと考えられるが、助産師としてお産の学級未参加の夫に対し呼吸法や補助動作の指導を行うなど、と分娩経過中の現場で状況にあわせたサポートと、産婦、夫への配慮が必要と思われる。

産婦からはそばにいてくれてよかったといった感想がある一方、夫からは何もできなかったといった感想が聞かれた。夫がそばにいて、産婦が安心できたり、心強かったり、精神的な援助になるので、そばにいて大切であるということ、関わりの中で伝えていく必要がある。

ぜひ立会い分娩をしたいと思った夫のうち次も立会い分娩を希望する夫は93.8%に対して、しぶしぶ承諾した夫で次も立会い分娩を希望する夫は55.5%であった。青野らは、「自ら希望しなかった分娩に立ち会った夫は否定的な感情を抱いていたことが観察された」と述べている²⁾。夫婦で話し合ってもらって、夫婦が同意したうえで夫立会い分娩を実施しているが、今後も夫婦でしっかり話し合うようすすめ、立会い分娩時に両者の意見を再確認し、希望を尊重していくことが必要と思われる。

夫立会い分娩の意義として「夫婦で我児の誕生を迎え、父親が育児に参加していく基礎をつくっていくもの」と木村らは述べている³⁾。アンケートから、父親の自覚が持てた、妻・子どもを大切にしたい、家族の絆が深まったといった感想やこれからの育児を二人で頑張りたいといった感想が聞かれており、夫立会い分娩をしたことが親になる責任感や父性が芽生える良い機会であり、夫立会い分娩の意義が十分に達成されていると考えられる。

矢島が「産むことは特別なことではなく、ふつうの生活をしながら家族とともにできる」と述べている⁴⁾ように、私たちは、新しい命を迎える時、産婦の周りに家族がいることが本来あるべき姿であり、それが今後の育児や家族のあり方につながると考える。

夫立会い分娩ができなかった理由が上の子がいる為といったものが多いことや、夫以外の立ち会い分娩を望む声もあることから、今後は夫以外の家族の立会い分娩も検討し、満足できた分娩体験が育児やその後の家族の生活の出発点となるよう、援助していきたい。

V. 結語

夫立会い分娩は夫婦に出産の満足感を与えており、今後の育児にもつながるといえる。立会い分娩を夫と限らず、新しい命を家族で迎え、育てていく援助になるよう検討していきたいと思う。

VI. 文献

- 1) 高橋真理：夫立ち会い出産の心理的効果，ペリネイタルケア，第13巻春期増刊；71-76，1993
- 2) 木村好秀，加藤さつき：夫立会い分娩，周産期医学，第27巻増刊号；328-329，1997
- 3) 青野真歩：分娩立会いが立ち会う夫の感情に与える影響—立会い群と非立会い群の比較—，母性衛生，第45巻4号，530—539，2005
- 4) 矢島床子：Feeling Birth 心と体で感じるお産，40-42，バジリコ株式会社，2007